



看取りの文化を構想する

□ オンライン開催

死生学研究所ホームページから
お申込みください

□ お申込み締め切り

2024年1月17日（水）17時

□ お問い合わせ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□ 先着 100名様

□ 参加費 無料

第8回連続講座

山田慎也

国立歴史民俗博物館
副館長 教授
(やまだしんや)

1月20日（土）

16:20-17:50

近親者なき故人の葬送と

困窮高齢者の意思の実現

■プロフィール

1997年慶應義塾大学社会学研究科博士課程
単位取得退学、博士（社会学、慶應義塾大学
2000年）、1997年国立民族学博物館
COE研究員、1998年国立歴史民俗博物館
助手、2007年同館准教授、2019年同館教
授、2022年副館長となり現在に至る。
専門は民俗学・文化人類学。

■主要業績

単著『現代日本の死と葬儀—葬祭業の展開と死生
観の変容』（2007、東京大学出版会）、共編著
『近代化のなかの誕生と死』（2013、岩田書
院）、共編著『変容する死の文化—現代東アジア
の葬送と墓制』（2014、東京大学出版会）、共
編著『無縁社会の葬儀と墓—死者との過去・現
在・未来』（2022、吉川弘文館）など。

内容紹介：

現在、単身の高齢者世帯が増加しています。そのな
かには近親者がいない、もしくは、いたとしても何ら
かの理由で関係が絶えている人もおり、さらに経済的
にも困窮している人も多く見られます。こうした近親
者のいない高齢者が終末期となり死を迎えると、多く
の場合行政が対処することとなり、無縁故者として扱
われていきます。そこではかならずしも生前の意思は
反映されることが少ない現状があります。そこでこう
した問題について、積極的に対応を行っている自治体
のひとつとして神奈川県横須賀市が挙げられます。今
回は横須賀市の例を中心に、このような人々がどのよ
うに死を迎え送られているのかについて考えていき
たいと思います。

Annual
of the Institute
for Life and Death Studies,

Toyo Eiwa University

死生学年報

2023

●死生学の拡がり

東洋英和女学院大学
死生学研究所編



LITHON

東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報2023

「死生学の拡がり」

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます

◆お問い合わせ 東洋英和女学院大学 死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

公開講座の
お申込みは
こちらから

